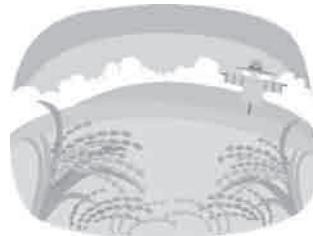


ツクシとスギナ



冬になると色々な植物が顔を出しはじめ、

冬から春の風景に変わりますが、個人的には春の風物詩といえばまずツクシを思い浮かべます。ツクシはタンポポやレンゲの花と同じく郷愁を誘い、一面に生えているのを見ると、今でも摘み取りたくなる衝動にかられます。

ツクシはスギナにくつづいて出ている様に見えることから「付く子」、袴の所でついでいる様に見えることから「継ぐ子」となった説や、土から出てきた姿が「筆」に似ていることから「土筆」という字を当てられるようになりました。スギナは杉の葉に似ていることから「杉菜」の字を当てられたと言われています。

ツクシとスギナは土中で地下茎（ちかけい）でつながっており、ツクシはスギナが胞子を生産し放出させるために、春の一時期にだけ成長させる茎に過ぎません。ツクシは普通の植物で言えば種を作る花にあたり、スギナは栄養を作る葉にあたります。植物図鑑には普通「ツクシ」では掲載されておらず、「スギ

ナ」で引かなければならぬのはそのためです。冒頭、ツクシに対する郷愁の念を述べました
が、農業にかかる立場から見ると、ツクシやスギナに対する感情は180度逆転します。
ある山菜の本に、ツクシについて「唯一採りつくす心配のない山菜」と書かれていましたが、ツクシやスギナは農業においては、とてもやっかいな雑草で、アスペラガス畠などでは、雑草のうちスギナが最も防除困難といわれておなり、独占的かつ多発生している畠をよく目にします。

畠でのスギナの発生を抑制するためには、その生態を理解して対応する必要があります。

① 土壌酸度の誤解

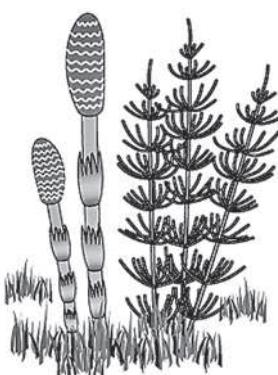
スギナは普通の作物が育ちにくい酸性土壌の環境を好んで繁殖すると言われることがあります。ツクシはスギナにくつづいて出ている様に見えることから「付く子」、袴の所でついでいる様に見えることから「継ぐ子」となった説や、土から出てきた姿が「筆」に似ていることから「土筆」という字を当てられるようになりました。スギナは杉の葉に似ていることから「杉菜」の字を当てられたと言われています。

ツクシとスギナは土中で地下茎（ちかけい）でつながっており、ツクシはスギナが胞子を生産し放出させるために、春の一時期にだけ成長させる茎に過ぎません。ツクシは普通の植物で言えば種を作る花にあたり、スギナは栄養を作る葉にあたります。植物図鑑には普通「ツクシ」では掲載されておらず、「スギ

スギナの生育は、春に地下茎から地上茎が伸びるところから始まります。同時に地下茎に生育・増殖のための養分が蓄積され、地下茎が伸長しますが、その速度は最初の2ヶ月は緩やかで、2ヶ月を過ぎたころから急激に伸長します。スギナの増殖は、ツクシから拡散される胞子によるものと栄養分を蓄えた地下茎や塊根により行われます。スギナの地下茎は多くが土中に深く張っており、2mもの深層でも長く生き残ります。畠を耕す際にこの地下茎を切断すると断片がほ場内に拡散し、それがまた増殖します。

これらのことから、スギナ退治のポイントは「地下茎に養分を蓄えないうちにダメージを与える」ことであることがわかります。

よって茎葉処理型除草剤の散布時期は、スギナが生育を始めて地上茎が出そろい、高さ20~30cmとなつた頃がもつとも良い時期です。この頃に地上部を枯らせば、スギナは地下部に栄養を送れなくなり、生育・増殖が抑えられます。一度ではスギナは死滅しませんが、またスギナが生育を始めて20~30cmになつた頃に再度防除します。スギナが見られなくなるまで、これを根気よく繰り返すことが重要です。



② スギナの生育と増殖